

I 歩み

～ Our History ～

開校より連なる系譜に思いを馳せ 鳥沼小学校の「いま」を見つめる

学舎をひらく

鳥沼の教育は、明治36年（1905）に上富良野村字中富良野東9線の簡易教育所開設に始まる。時に、当地が新たに下富良野村として富良野村より分村し、学校設置の機運が大きく高まりをみせた。

そこで、山名仁平・森田藤治郎の両氏をはじめとする有志が開設に向けた活動を積極的に進め、さらに戸長であった花里壽氏の尽力と相まって、翌明治37年（1906）5月、北海道庁より正式に開設認可を受けるに至った。このことを受け、急遽下富良野村字中富良野東9線6号39番地、河田庄吉氏の所有地にある納屋を改造して校舎とし、同年7月27日より授業を開始した。

当時の在籍児童数は11名（男子4名、女子7名）で、田中実氏が訓導を務めていたが、備品や教具等を整える費用も十分ではなく、児童は筵（むしろ）に座り、灯油の空き箱を机として授業を受けていた。また、校舎の周囲には樹木が生い茂り、熊の出没、雨天が続くと膝までぬかるむ道など、通学そのものも決して容易ではなかったといわれる。

この状況をみた先刻の山名（初代学務委員）・藤田（組代表）の両氏は、地域に校舎建設を呼びかけて総額180円（当時）を募り、明治39年（1908）2月、建坪にして15坪となる初代鳥沼小学校校舎が竣工した。

地域のすがた

本校は富良野市街より約6km東方の丘陵に位置し、校舎からは市中心部の町並みや中富良野町に連なる田園風景、芦別岳など富良野盆地を形作る雄大な山並みを一望できる。近郊には、地域・校名の由来となり「真冬凍らぬ清さ（校歌）」の湧水をたたえた鳥沼があり、鳥・昆虫・草木など豊かな自然に溢れる環境は、児童の豊かな知識と情操を育む貴重な教育資源である。また、木の温もりと優しさに溢れ、周囲の景観とも調和した現在の校舎（第4代）は平成8年（1996）に竣工し、地域のスポーツ・文化の拠点となっている。

校区内には、約90戸が在住する。その多くは畑作農業に従事しており、品質の優れた農産物は全国的にも高い定評を得ている。さらに様々な組織・団体の要職にある方々も多く、社会を担う人材を輩出している地域でもある。また、近隣の児童養護施設「富良野国の子寮」では、初代寮長である名取マサ氏（故人）の慈愛の精神を受け継ぎ、在所する児童を温かく、また時には厳しさをもって育てている。

鳥沼地区連合会員として地域の絆は固く、また、数世代に渡り本校の同窓生という家庭も多い。

地域全戸がPTA会員として児童の育成に関わってくださり、本校にとってのかけがえのない教育資源となっている。

児童のすがた

児童は、農業者を中心とする鳥沼地区の各家庭ならびに前述の国の子寮から通学している。寮との連携については日常的に小学部指導員を中心として連携を密にし、児童の人権や心情に配慮した指導・支援に務めている。

学芸会での演劇や音楽や校外、多くの観客・聴衆を前にした発表で発揮した豊かな表現力、さらに公共の場面での挨拶の素晴らしさなど、明確な意識付けとゆまぬ練習があれば、持ち前の可能性を成果と達成感に変えることのできる児童である。自己（他者）肯定感・有用感の向上という課題の克服は、あらゆる学習・生活体験の中で、自身の能力や努力を認められる機会をいかに多く積み重ねられるかにかかっている。